



隠れた古墳王国・群馬

渡辺 茂樹

Watanabe Shigeki

これまで日本アイソトープ協会から原稿依頼があるたび、「趣味は古墳」と記載していたところ、本欄での執筆依頼をいただくことができた。アイソトープ、特に放射性ハロゲンをこよなく愛する筆者にとって、同じく愛する古墳を紹介できることはこの上ない喜びである。今日は、筆者が住む群馬の古墳の特徴について紹介したい。

古墳と言えば、世界最大の天皇家古墳（仁徳天皇陵）や、壁画が有名な高松塚古墳等、近畿地方の古墳を思い浮かべる方が多いと思う。しかし、群馬県もかつては約 13,000 基が築造され、現在でも約 2,400 基が残る「隠れた古墳王国」である（その数は群馬県のコンビニの約 2.67 倍）。よくよく考えれば筆者にとって古墳は身近なものである。例えば、自宅から程近いところに保渡田八幡塚（ほどたはちまんづか）古墳という、築造当時の姿を再現したことで TV 番組や CM でもたびたび取り上げられる前方後円墳がある。ここは公園として整備されており、6 歳と 2 歳になる我が子の遊び場として、また、古墳をめぐる遊歩道は 1 日 8,000 歩を目標とする筆者の格好の散歩コースとして、活用している。更に筆者が所属する高崎量子応用研究所の至近にも前方後円墳が 3 基あり、その 1 つである綿貫観音山古墳は小学校の遠足で訪れた場所でもある。それだけではない、居室がある建物のところにも岩鼻二子山（いわはなふたごやま）古墳という前方後円墳が存在していた。そう筆者は、かつて古墳があった場所でこの原稿を書いているのである。

さて、筆者の独断と偏見から群馬の古墳の特徴について述べてみたいと思う。その 1 つは「体感できる」という点である。というのも、前述の天皇陵

は周濠で囲まれている上、国の厳重な管理下において近寄ることができない。また、高松塚古墳等の有名な古墳も保護のため墳丘に直接入れないケースがある。それに対し、群馬の古墳は、マイナーであるが故に、ルールを守れば古墳に登ることができる場所も多く、安全が確保されている横穴式石室は自由に入ることもできる。更に、石室内あるいは古墳の上に石棺が残っているところもあり、例えば伊勢崎市にあるお富士山古墳は、近畿地方で王墓のみに使用される「長持型石棺」を生で見れる数少ない前方後円墳である。もう 1 つは「多彩な埴輪を楽しめる」点である。というのも、群馬は埴輪の出土数が断トツ日本一だそうで、これは、近畿地方では王墓等一部の古墳だけに埴輪を並べたのに対し、群馬では近畿から遠く離れていることを良いことに（と思っただけは知らないが）埴輪を大量生産し、古墳の大小にかかわらず「全部のセラメン」のごとく並べたから、らしい。その結果「はに丸」「ひんべえ」のような一般的な埴輪だけでなく、国宝に指定されるほどの精巧な埴輪、更には「鷹の向きが逆の鷹匠埴輪（筆者のお気に入り）」等珍しいものまで個性豊かな埴輪が多数出土しており、県内の歴史資料館等ほぼすべてで見学できる。更には、あまりの多彩さに「HANI 本」なる群馬県公式ガイドブックや、「HANI アプリ」なる埴輪育成ゲームまであり、ひと味違った形で楽しむことができる。

ここ数年の古墳ブームで、古墳に認知は高まっている（と信じている）ものの、結局は「屋外の巨大なお墓」である。故に、有名テーマパークのように長蛇の列ができたり、入場制限するほど人が集まることは、残念ながら無い。しかし、逆に言えば、人との距離を十分保ちながら歴史を感じ、散歩もできるという、コロナ禍にあって心身共にリフレッシュできる良いスポットだと思う。これを機会に群馬の古墳に興味を持ってくださる読者がいらっしやれば幸いです。

((国研)量子科学技術研究開発機構 高崎量子応用研究所)